

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 計画

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	唐津市立北波多小学校
1 前年度 評価結果の概要	・どの項目も概ね目標通り達成することができた。 ・UDの視点を取り入れた授業づくりでは、職員間での取組の共有や理解も進んでいる。今後は、さらなる手立ての共通理解を深め、北波多小のスタンダードな授業づくりとして定着を図っていきたい。 ・小中連携については、職員も毎年入れ替わることから、今後も続けて連携の重要性を全職員が意識できるよう取り組み、連携を深めていきたい。幼保小連携については、まずは職員が互いに授業や取組等を参観できる仕組みづくりを整え、より充実した連携を進めていきたい。 ・校時表の見直しにより、職員の実感を伴う業務負担の軽減を図ることができた。しかし、個人間での差がまだ見られるので、その解消に向け、職員のタイムマネジメント意識向上につながよう研修等を行い、業務改善をさらに進めていきたい。
2 学校教育目標	とことん学び とともに高めあう 元気いっぱい北波多っ子 ～笑顔と思いやりがあふれる学校～
3 本年度の重点目標	◇豊かな心の育成 ◇確かな学力の育成 ◇健やかな体づくりの育成 ◇安心・安全な学校づくり ◇家庭・地域との連携強化

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価				主な担当者
(1)共通評価項目										
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○UDの視点を取り入れた授業づくり(学ぶことを楽しみ、主体的に学習に取り組む児童の育成)	○業者テスト(国語・算数)学期末評価B以上の児童80%以上		・指示や板書の方法、授業の形態等を工夫し、学習内容を児童がより深く理解できるようになるための方法について、校内で研究を進め実践する。		・		・		
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○集団の中で積極的に活動したり協力したりできた児童85%以上 ○進んであいさつをすることができたと肯定的な回答をした児童80%以上		・縦割り班での遊びを通して、異学年交流に取り組む。 ・人権教室「かがやきタイム」の充実を図り、「仲間づくり」に視点を置いた取り組みを実践する。 ・委員会やボランティアの児童と共に、朝のあいさつ運動を推進する。		・		・		
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「困ったことがあれば、先生や保護者に相談できる」と肯定的な回答をした児童80%以上		・Q-Uアンケートや毎月の「心のアンケート」の結果を週1回の連絡会で情報共有を行うとともに学級経営に生かす。 ・いじめ防止対策委員会を中心にいじめ防止対策を行う。年2回の拡大委員会を開き、情報共有と適切な対応を行う。		・		・		
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒90%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上		・キャリア教育に関わる諸活動について、キャリアパスポートを系統的に位置づけ、自身の変容や成長を自己評価させる。 ・郷土について学ぶ体験活動をカリキュラムに位置付ける。		・		・		
	◎人権・同和教育の推進 ○心のアンケートの推進	◎「児童生徒を対象にした人権学習」の実施率90%以上 ○「学校では楽しく生活することができていますか。」と回答した児童90%以上		・児童生徒支援教員を中心に、人権学習の授業プランを提案、実行する。 ・日常生活において、安心して過ごすことのできる集団づくりと教職員との良好な関係づくりを行う。		・		・		
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に良い食事をしている」児童生徒90%以上		・各学期において、食に関する指導を全クラスで行い、児童の食に対する意識を高める。		・		・		
	●「望ましい生活習慣の育成」	○朝の健康観察を100%にする。 ○「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣を身に付けることができている児童90%以上		・家庭と連携して、健康維持の意識向上に取り組む。 ・換気、手洗い、消毒、密の回避など感染対策も引き続き行う。		・		・		
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上		・服務管理システムを活用し、毎月の時間外在校等の時間が45時間以下になるようタイムマネジメントの意識を高める。 ・校務分掌や教材研究に係るデータの共有化を図る。 ・年休取得日数を年間14日以上とし、定時退勤日(毎週金曜日)の遵守を進め、メリハリのある業務推進とワークライフバランスの意識の向上を図る。		・		・		
	○業務精選の推進	○行事の精選や日々の業務の不断の見直しをさらに推進する。		・業務の効率化、働き方改革が進んでいると感じる職員の割合を90%以上		・		・		
●特別支援教育の充実	○児童の特性を考慮した環境整備(人的・物的) ○特別支援教育に関する知識の深化	○特別支援教育への理解が深まったと回答する教職員の割合80%以上		・週1回の子ども支援会議の実施 ・特別支援に関する研修会の実施(校内研究を含む) ・ケース会議の開催と情報共有		・		・		

様式1(小・中)

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										主な担当者
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○小中連携の充実と地域連携の強化	○小中連携による学力向上と、地域住民(学校支援ボランティア)・保護者と協働した教育課程の実施	○小中連携・地域連携による取組への肯定的な回答をした保護者・教職員の割合80%以上。	・小中合同推進委員会と研修会の定期的な実施 ・小中相互の授業参観 ・学校教育活動に合った学校支援ボランティアとの連携を推進する。							
●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志と誇りを高める教育										
5 総合評価・次年度への展望										